野の仏

福田蓼汀

追分や泉のほとりの一樹の下に
秋風を聴き時雨に濡れ雪に埋れて
春遠からじと合掌し落花を浴び
蟬しぐれを迎え傾くは傾くままに
欠けたるは欠けたるままの姿で

じっと静止している石の仏
年月も文字もなく風化するまま往還の去来
盛衰の人の世を見守っている
野の仏には虚飾なき人間の願望や
慈愛の情がこめられている
社会の変転現象を越えた誠の象徴のように懐しい